

原子炉実験所だより

目次

1. 平成6年度共同利用研究（追加申請）の提出期限について	1
2. 平成6年度ワークショップ、専門研究会の審査結果	1
3. 平成6年度臨界集合体実験装置共同利用研究の審査結果	3
4. 平成6年度の一般公開について	5
5. 原子炉実験所食堂の営業廃止について	5
6. コインロッカーの設置について	7
7. 「KURの将来をくれぐれも宜しく」（澁谷 巖）	7
8. 外国人研究員の受入れについて	9
9. 外国人研究者講演会報告	9
10. 審議員名簿	10
11. 原子炉実験所運営委員会委員名簿	11
12. 原子炉実験所各種委員会名簿	12
13. 職員の異動	14
14. 委員会メモ（平成6年2月～6年4月）	15
編集後記	16

1. 平成6年度共同利用研究（追加申請）

の提出期限について

平成6年度の共同利用研究は、すでに年度当初に公募採択しておりますが、特に希望のある場合は下半期だけの「通常採択」について追加申請を受付けております。申請書類の提出期限及び送付先は次のとおりとなっておりますので、十分ご留意願います。

提出期限：イ）共同利用研究〔ロ）を除く〕

平成6年6月10日（金）

ロ）臨界集合体実験装置（附設中性子発生装置を含む。）

共同利用研究

平成6年7月29日（金）

送付先：郵便番号 590-04

大阪府泉南郡熊取町野田

京都大学原子炉実験所

共同利用掛

（封筒の表に「申請書在中」と朱記して下さい。）

なお郵送の場合は必ず「書留便」にして下さい。）

2. 平成6年度ワークショップ、専門研究会の審査結果

運営委員会において申請のあったワークショップ6件、専門研究会14件を審査の結果、ワークショップ、専門研究会ともに全件が採択されました。

平成6年度ワークショップ採択一覧

ワークショップ名	申 請 者	開 催 責 任 者	
		所 外	所 内
ホットラボ及びホットラボの後備設備	金沢大理 教 授 坂本 浩	金沢大理 教 授 坂本 浩	森山裕文
研究用原子炉の機能整備	京大原子炉 教 授 西原英晃	名大工 教 授 加藤敏郎	宇津呂雄彦
生物照射用低エネルギー単色中性子場の開発	京大原子炉 教 授 内海博司	京大放生研 教 授 佐々木正夫	内海博司
精密制御材料照射装置の開発・設置と応用	広 大 工 教 授 下村義治	九大応力研 教 授 吉田直亮	義家敏正

多層膜中性子干渉計の改良と応用	京大原子炉 助 手 海老沢徹	茨城高専 講 師 高原淑恵	海老沢徹
臨界集合体実験装置の改造	京大原子炉 助教授 神田啓治	東北大工 教 授 平川直弘	神田啓治

(平成6年4月8日運営委員会)

平成6年度専門研究会採択一覧

研 究 会 名	申 請 者	開 催 責 任 者	
		所 外	所 内
アクチノイド元素の化学と工学	北大工 教 授 大橋弘士	北大工 教 授 大橋弘士	森山裕丈 中込良廣
短寿命RIによる物性研究	京大原子炉 教 授 川瀬洋一	阪大基礎工 助教授 那須三郎	川瀬洋一 前田 豊
次世代の原子炉物理学	京大原子炉 助教授 代谷誠治	阪 大 工 助教授 竹田敏一	代谷誠治
トリチウムの環境内挙動と線量評価	京大原子炉 助教授 齊藤眞弘	大阪薬科大 助教授 木村捷二郎	齊藤眞弘
一貫した核燃料サイクルを目指す原子力研究	京大原子炉 助教授 三島嘉一郎	名 大 工 教 授 仁科浩二郎	西原英晃
研究炉等管理	京大原子炉 教 授 藤田薫顕	近大原研 教 授 柴田俊一	藤田薫顕
放射線誘起構造変化	京大原子炉 助教授 松山奉史	北教大函館 教 授 小笠原正明	松山奉史
放射性廃棄物管理	京 大 工 教 授 東 邦夫	京 大 工 教 授 東 邦夫	下浦一邦
放射線を利用した生命現象解明への展望	放医研 主任研究官 島田義也	放医研 主任研究官 島田義也	内海博司
ホウ素化合物の科学と ¹⁰ B中性子捕捉療法	東北大理 教 授 山本嘉則	東北大理 教 授 山本嘉則	北岡祥伯 小林慎江
伝熱機能促進技術	京大原子炉 助教授 三島嘉一郎	京 大 工 教 授 芹澤昭示	三島嘉一郎
核分裂研究のフロンティアー基礎と応用	東京都立大理 教 授 中原弘道	東京都立大理 教授 中原弘道	中込良廣
放射線と原子力の安全哲学構築	高エネ研 教 授 加藤和明	高エネ研 教 授 加藤和明	辻本 忠
非電離放射線の生体影響	帝 京 大 教 授 宮原 昭	学識経験者 岡部 茂	辻本 忠

(平成6年4月8日運営委員会)

3. 平成6年度臨界集合体実験装置

共同利用研究の審査結果

臨界集合体実験装置共同利用委員会において申請のあった10件について審査の結果、全件の採択となりました。

平成6年度臨界集合体実験装置共同利用採択一覧表

申請者・協力者			実験課題	区分
氏名	所属・職名			
竹田 敏一	阪大・工	助教授	軸方向ブランケットを持つ $V_m/V_f=0.67$ 炉心の反応率分布測定	共通
宮地 孝政	"	院 生		
加藤 芳樹	"	研究生		
相沢 乙彦	武工大・原研	教 授		
佐久間祐一	武工大・工	院 生		
鳥海 信之	"	"		
代谷 誠治	京大・原子炉	助教授		
宇根崎博信	"	助 手	上部スペクトルシフター付稠密炉心 ($V_m/V_f=0.67$) の反応率分布の測定	共通
相沢 乙彦	武工大・原研	教 授		
竹田 敏一	阪大・工	助教授		
佐久間祐一	武工大・工	院 生		
鳥海 信之	"	"		
宮地 孝政	阪大・工	"		
加藤 芳樹	"	研究生		
代谷 誠治	京大・原子炉	助教授	トリウム転換ハイブリッド炉の基礎研究	共通
宇根崎博信	"	助 手		
木村 逸郎	京大・工	教 授		
神野 郁夫	"	助 手		
金澤 哲	"	技 官		
林 脩平	立教大・原研	助教授		
市原 千博	京大・原子炉	助 手		
小林 圭二	"	"	高分解位置検出器を用いた炉心内中性子束分布の高精度迅速測定	共通
中村 博	"	技 官		
森 千鶴夫	名大・工	教 授		
瓜谷 章	"	助 手		
柳田 勝男	"	技 官		
竹中 康人	"	院 生		
国谷 浩	"	"		
小林 圭二	京大・原子炉	助 手	低濃縮・不均一燃料濃度分布体系の燃料インポートランス測定	共通
市原 千博	"	"		
代谷 誠治	"	助教授		
山根 義宏	名大・工	助教授		
三澤 毅	"	院 生		
伏木 勝己	"	"		
首野 浩樹	"	"		
吉井 貴	"	"	京大・原子炉	共通
竹本 吉成	"	"		
代谷 誠治	京大・原子炉	助教授		
小林 圭二	"	助 手		

申請者・協力者			実験課題	区分
氏名	所属・職名			
三澤 毅	名大・工	助手	中性子漏洩の著しい小型炉心の特性解析	一般 通 常
山根 義宏	"	助教授		
伏木 勝己	"	院 生		
平川 直弘	東北大・工	教 授		
岩崎 智彦	"	助 手		
作屋 義昌	"	院 生		
相沢 乙彦	武工大・原研	教 授		
鳥海 信之	武工大・工	院 生		
竹田 敏一	阪大・工	助教授		
北田 孝典	"	院 生		
小林 啓祐	京大・工	助教授		
喜多 利亘	"	院 生		
小川 喜弘	近大・理工	助 手		
工藤 和彦	九大・工	教 授	H/U比の小さいトリウム含有炉心の臨界実験	一般 通 常
工藤 和彦	九大・工	教 授		
城崎 知至	"	院 生		
高橋 俊樹	"	"		
田原 靖彦	"	"		
西尾 浩紀	"	"		
三好 勝正	"	"	小さなH/U比を有するTh装荷炉心の臨界実験	共同 通 常
平川 直弘	東北大・工	教 授		
岩崎 智彦	"	助 手		
須山 賢也	"	院 生		
作屋 義昌	"	"		
曾田 大輔	"	"		
小林 圭二	京大・原子炉	助 手		
代谷 誠治	"	助教授	重水反射体内のアクチニド核の反応率分布の測定	共同 通 常
岩崎 智彦	東北大・工	助 手		
須山 賢也	"	院 生		
作屋 義昌	"	"		
佐波 俊哉	"	"		
林 正俊	京大・原子炉	助 手		
代谷 誠治	"	助教授	炉心中性子スペクトル測定に関する基礎研究	共同 通 常
阪元 重康	東海大・工	教 授		
高倉 元	"	院 生		
生沼 亮二	"	"		
村崎 穰	"	"		
大川 剛	"	学 生		
山崎 寿昭	"	"		
湯田 琢磨	"	"		
代谷 誠治	京大・原子炉	助教授		
小林 圭二	"	助 手		

(平成6年2月17日臨界集合体実験装置共同利用委員会)

4. 平成6年度の一般公開について

平成6年度の一般公開を去る4月9日(土)午後1時から4時まで実施した。当日はやや風が冷たかったが上天気で、折良く所内の桜は満開であった。来訪者は157名に上り、熊取町ばかりでなく、大阪市内や大阪府南端の岬町からも来訪があった。臨界集合体棟、

原子炉室、ホットラボ、廃棄物処理棟を公開し、30数名の所員が設営、受付や案内に当たった。ABC、YTVなど大阪のテレビ局からも取材があり、当日夕刻のニュースの中で、公開の状況の放映があった。

(学術公開委員会)

5. 原子炉実験所食堂の営業廃止について

長年にわたり、共同利用研究者各位にご利用いただきました原子炉実験所の食堂の営業につきましては、このたび、本年3月31日限りをもって営業を廃止する旨請負業者から申し出がありました。

原子炉実験所の設立当初は、近辺に飲食店もなく、所内に食堂を設けることは、共同利用を実施するに当って欠くべからざる条件であり、来所された研究者や学生の方々を始め所員等を含め多くの利用者があり、営業時間を限定すること、予約制にすること、メニューを限定すること等の制限された条件の下ではありましたが、運営もそれなりに成り立ってまいりました。しかしながら、年が経つにつれ周辺の開発が進み、実験所近辺にも飲食店が建ち並んでくるに従い、職員や来所者も一般の飲食店を徐々に利用するようになり、所

内の食堂は年々その利用者が減少してまいりました。最近過去1年の共同利用者の所内食堂の利用者数は1日当たり平均5人にも満たないような状況になるに至り、請負の業者も採算が合わず、営業の継続が困難となり、本年3月31日限りで廃業を申し出てきたものであります。

実験所側といたしましては、この申し出に対し、関係者により協議を行い、検討してまいりましたが、諸般の事情を考慮した結果、所内の食堂の運営を廃止することもやむを得ないとの結論に達したものであります。

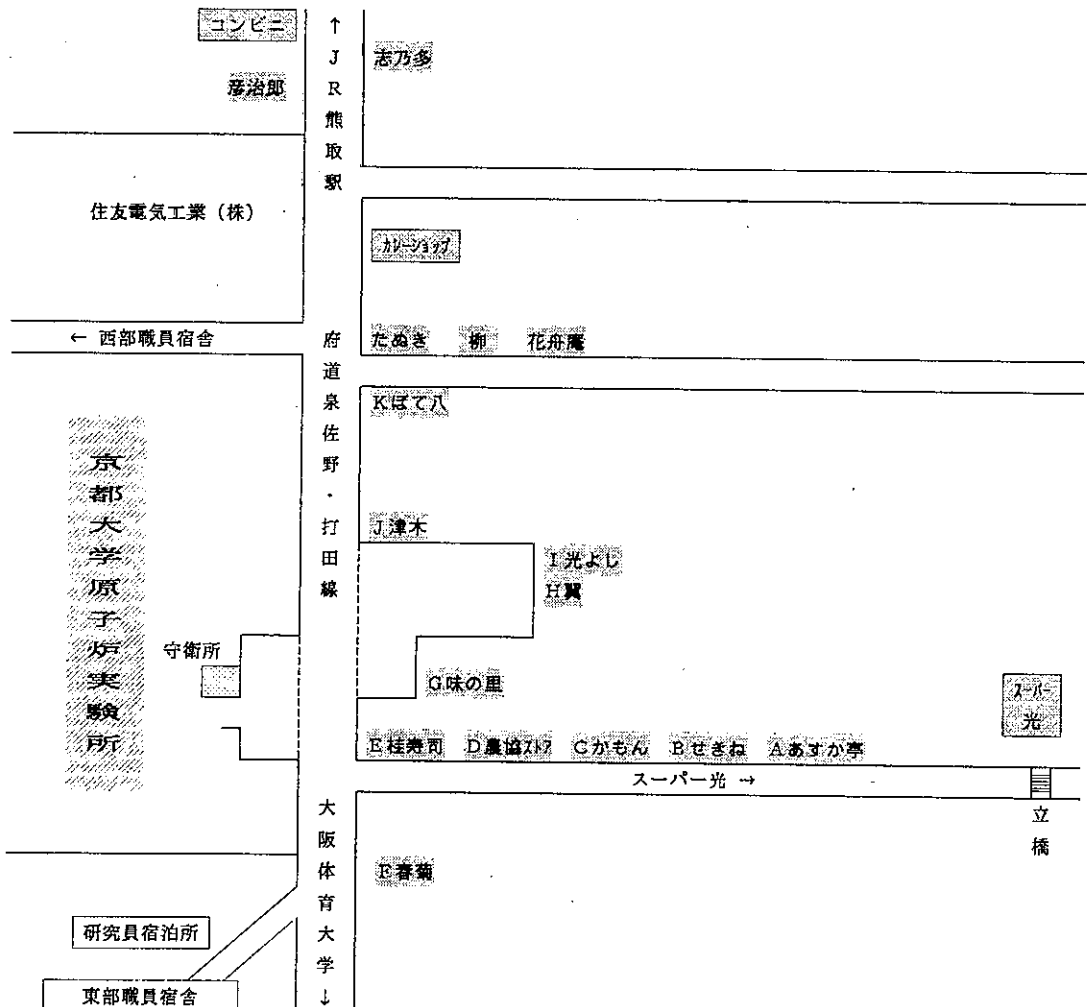
共同利用研究者各位におかれましては、以上のことをご理解いただき、今後は実験所近辺の飲食店を利用すること等により、今回の決定にご協力方よろしくお願い致します。

京都大学原子炉実験所周辺の飲食店

平成6年4月現在

番 号	店 名	種 類	営 業 時 間	定休日	備 考
A	あすか亭	お好み焼き、和洋定食	11:30~22:30	水曜日	
B	せきね	和洋定食、一品料理	7:00~16:00	日曜日	朝食可
C	かもん	和洋定食、一品料理	17:00~23:00	日曜日	
D	農協ストア	食品、日用雑貨品、菓子等販売	9:00~17:00	日曜日	
E	桂寿司	寿司、一品料理	11:00~13:30、17:00~22:00	火曜日	
F	春菊	洋定食、軽食、喫茶(18:00以降スナック)	8:00~18:00	日曜日	朝食可
G	味の里	和洋定食、一品料理	11:00~15:00、17:00~21:00	土曜日	
H	翼	軽食、喫茶(18:00以降スナック)	8:00~18:00	日曜日	朝食可
I	光よし	焼肉、一品料理	17:30~22:00	日曜日	
J	津木	和食、一品料理	13:30~23:00	月曜日	
K	ばて八	お好み焼き、和洋定食	11:00~22:00	月曜日	

その他すこし遠くなりますが、「たぬき」「柳」「花舟庵」「志乃多」「彦治郎」等があります。



6. コインロッカーの設置について

このたび原子炉実験所では、ホットラボの共同利用研究者控室に設置してありましたロッカーを、新しくコインロッカーに取替えました。

従前、ロッカーの利用については、来所時に共同利用掛の窓口でロッカーの鍵を受け取り、退所時にそれを返却する方法で、ご利用いただいておりますが、コインロッカー方式になったことにより、入退所時の時間に制

限されずに、実験所滞在期間中は、自由にロッカーをご利用していただけるようになりました。

利用の際には100円硬貨が必要ですが、開錠すれば返却される方式になっています。

ロッカーは30台設けてありますので、設置場所に提示されている利用上の注意事項を遵守していただき、有効にご利用下さい。

(共同利用掛)

7. KURの将来をくれぐれも宜しく

澁谷 巖

実験所だよりも、実験所の外からお便りを差し上げる事になりましたが、何となくまだピンと来ません。つい先日まで31年間も私は実験所のお世話になって居たのですから。月日の経つのは全く早いものです。私は昭和39年6月、KUR利用研究者グループの幹事に選ばれて実験所だよりの前身であるKURニュースの編集幹事となりました。以来30年の歳月が流れたこととなります。最初の10年程は、無味乾燥な連絡記事ばかりで、その殆どが私の筆によるものでした。今でもこの事にはすごく恐縮して居ります。

実験所開設当初の事情では私のような駆け出しの新人にとってさえも、とてもゆっくりと構想を練って潤いのあるニュース記事を書くゆとりが無かったのです。何とぞ御寛容のほどお願い致します。その後、神田先生が編集長になられてから、次々に新しい企画が盛

り込まれ、今日のような形にまで成長したものでした。

ところで、“去る者日々に疎し”という諺があります。この実験所だよりが読者の手元に行き渡るころには大部分の人達はもう私の事は忘れてしまっておられるかも知れません。しかし、この諺は去られた側の論理だと思います。去った者からみれば、組織のなかであくせくしていた時よりも、今まで居た職場とその中で働くかつての仲間達の事がより一層ハッキリと見えて来るのがわかります。野球や相撲の世界では、現役を退いた人達が、テレビやラジオで、これまで自分が生きてきた世界の事を活発自由奔放に論説しております。私にはそれほどの自信も実績もありません。しかし所員として痛感していても、所員なるが故に言えなかった事が一つ有ります。所を離れた自由な立場で、所員に代わり、この機

会をお借りして一言お願い申し上げて所外の皆様のご理解とご協力が得られれば幸甚と存じあえて筆を執りました。

元来大学付置の研究所における大学人にとって常識的にノルマとなる事と言えば、研究と教育でありましょう。このために必要な予算、運営等についても事務官、技官、教官が協力して頑張っているわけです。実験所の所員にとってもこれ等は勿論第一義的に大切な事に違いありません。しかしその上、彼等にとってはそれを遥かに上回る強烈なノルマが課されています。それは、共同利用研究所であるが故に、自らの研究に専念したい時間のかなりの部分を犠牲にして、共同利用研究所の研究支援活動に費やす義務があるのです。これには、所員各自の極めて旺盛なサービス精神が必要になります。更に、原子炉の安全運転管理、放射性廃棄物の処理、放射線及び核燃料の管理等の業務が目白押しに有ります。これ等は単に研究遂行上必要で有るのみならず、社会的に地元問題、環境問題とも密接に関連しておりますから、このうちのどれ一つが不完全であっても、その基盤の上に立つ研究も教育も円滑に行う事は不可能です。ところが、これ等の仕事はそれぞれ極めて厳しくたいへんなものばかりです。少なくとも研究の片手間でこなせるような生易しいものは皆無です。実験所の所員の大半は、この31年間黙々としてこれ等の職務に専念してきたのです。そのお蔭で、今日まで何一つ重大な事故も無く、所内外のこの分野の研究に貢献する事が出来たと言えます。これ等の仕事のどれ一つ取っても何事も無くて当たり前、もし何か有れば直ちに所のみならず研究分野全体の浮沈に係わる危機をもたらします。それでいて、無事完璧な仕事をしていても決して脚光を浴びる事無く当たりの事として見過ごされがちな

のです。

ところで、最近研究成果を重視するあまり、成果の数のみをデジタル評価して、実験所や所員の研究貢献度を過小評価するむきが顕著になっておるように感じます。私は、31年間実験所のお世話になり、それ以前にも幾つかの研究所で禄を食んできて、常に国内外の研究者との交流をして来た立場から見れば、実験所所員の研究成果はむしろ、その独創性や質の高さにおいて、過小評価する方々のそれと比較しても、勝さるとも劣らぬものがあると思っています。ただ、そのように、これでもかこれでもかと過小評価を押しつけられ続けると、所員達もディスカレッジして萎縮してしまう恐れがあります。私は苦勞を知らずに、このような意見を勇ましく述べられる方には失礼だが、それは実験所の将来に対して、とても危険な間違いを犯しておられるのではないかと思います。その理由は一々挙げなくても賢明な読者ならすぐわかって戴けるはずですからくどくは申しません。ただ、研究も運転管理も車の両輪として互いに持ちつ持たれつ、共に“心”と“技”を持った人間がやっている仕事であるからとだけ述べておきます。開設当初はむしろ今の反対で“管理優先、研究尊重”の名のもとに予算人事のすべての面で管理サイドが優先されたように思います。このやり方にも研究成果の向上のみを考えれば、弊害はあったと思います。しかし、その逆もまた実験所の健全な発展を阻害する危険性を孕んでいる事は明らかです。

文豪 菊地 寛の残した“無事名馬”という言葉どおり、私は原子炉実験所とその所員は、まさに“名馬”の名を欲しいままにする資格が充分にあると考えます。私は、今回実験所を去るにあたり、これまで何も出来なかったお詫びを先ず申し上げると同時に基だ

出過ぎた事とは思いますが、その名馬達が、
名馬の誇りを持って、意欲充分に生き活きと
して皆様のご期待に応えて走り続けられるよ
う、所内外からの温かいご声援とご理解をお

願い致したいと存じます。実験所のこれから
を、どうぞ、くれぐれも宜しくお願い申し上
げます。

(平成6年4月記、京都大学名誉教授)

8. 外国人研究員の受入れについて

氏 (所 属 名)	国 籍	研 修 科 目	受 入 期 間	備 考
Mongkol JUNLANAN 原子力平和利用事務所 原子炉主任技術者	タイ王国	原子炉物理学	平成 6. 3. 23 ～ 6. 6. 16	

9. 外国人研究者講演会報告

原子炉利用研究者グループの後援により、下記のとおり講演会が行われました。

① 平成6年3月10日開催

“ISO/IEC GUIDE 25. General Requirements for the Competence of
Calibration and Testing Laboratory ”

Dr. Jaw--Pin Shi

(Industrial Technology Research Institute TAIWAN)

② 平成6年3月16日開催

“Level Lifetimes—Keys to the Understanding of the A=100 Region ”

Dr. K. Sistemich

(IKP des Forschungszentrum)

③ 平成6年3月22日開催

"Nuclear Power in the States of the Former USSR and European Program of Transmutation "

Prof. Dr. D. Tsurikov

(Russian Research Center, Kurchatov Institute) .

④ 平成6年4月1日開催

"Kinetic Study of Selective Protection of Glycine in the Radiolysis of Glycine-Alanine Mixed Solution "

Dr. Rafael Navarro-Gonzalez

(Universtad National Autonoma de Mexico)

10. 審 議 員 名 簿

平成6年4月1日現在

北海道大学教授	(工 学 部)	大 橋 弘 士
東北大学教授	(同)	井 上 泰
東京大学教授	(同)	石 樽 顯 吉
大阪大学教授	(医 学 部)	井 上 俊 彦
同	(工 学 部)	宮 崎 慶 次
同	(基礎工学部)	葛 西 道 生
同	(理 学 部)	鹿 取 謙 二
九州大学教授	(応用力学研究所)	蔵 元 英 一
京都大学教授	(医 学 部)	阿 部 光 幸
同	(工 学 部)	芹 澤 昭 示
同	(理 学 部)	政 池 明
同	(化学研究所)	井 上 信
同	(原子炉実験所)	西 原 英 晃
同	(同)	藤 田 薫 顯
同	(同)	岡 野 事 行
同	(同)	宇津呂 雄 彦
同	(同)	前 田 豊
同	(同)	小 野 公 二
同	(同)	内 海 博 司
同	(同)	義 家 敏 正

京都大学教授	(原子炉実験所)	川 瀬 洋 一
同	(同)	森 山 裕 丈
同	(同)	岩 田 豊
同	(同)	神 田 啓 治

11. 京都大学原子炉実験所運営委員会委員名簿

平成6年4月1日現在

秋田大学	教 授	(医 学 部)	滝 澤 行 雄
新潟大学	同	(理 学 部)	橋 本 哲 夫
東京工業大学	同	(原子炉工学研究所)	関 本 博
名古屋大学	助教授	(工 学 部)	山 本 洋
大阪大学	教 授	(同)	山 本 忠 史
同	助教授	(理 学 部)	斎 藤 直
山口大学	教 授	(同)	岩 田 允 夫
奈良県立医科大学	同	(医 学 部)	大 西 武 雄
姫路工業大学	同	(理 学 部)	小 原 孝 夫
大阪薬科大学	助教授	(薬 学 部)	木 村 捷二郎
福山大学	教 授	(医 学 部)	占 部 逸 正
放射線医学総合研究所	障害臨床第四研究室長	(障害臨床研究部)	安 藤 興 一
京都大学	事 務 局 長		加 藤 孝 治
同	教 授	(原子炉実験所)	藤 田 薫 顕
同	同	(同)	宇津呂 雄 彦
同	同	(同)	前 田 豊
同	同	(同)	小 野 公 二
同	同	(同)	内 海 博 司
同	同	(同)	義 家 敏 正
同	同	(同)	岩 田 豊
同	助教授	(同)	長 谷 博 友
同	同	(同)	清 水 良 明
同	同	(同)	赤 星 光 彦
同	同	(同)	齊 藤 眞 弘
同	同	(同)	小 林 捷 平

12. 原子炉実験所各種委員会名簿

臨界集合体実験装置共同利用委員会委員名簿

平成6年4月15日現在

東北大学	工学部	助教授	馬場 譲
東京工業大学	原子炉工学研究所	教授	関本 博
大阪大学	工学部	助教授	竹田 敏一
神戸商船大学	商船学部	同	北村 晃
九州大学	工学部	教授	工藤 和彦
近畿大学	原子力研究所	助教授	大沢 孝明
日本原子力研究所	東海研究所安全性試験研究 センターNUCEF計画推進室	NUCEF 建設室次長	竹下 功
京都大学	原子炉実験所	教授	藤田 薫 顕
同	同	同	義家 敏正
同	同	助教授	代谷 誠治

原子炉安全委員会委員名簿

平成6年4月15日現在

議長	京都大学	原子炉実験所	所長	西原 英晃
委員	大阪大学	工学部	教授	宮崎 慶次
	近畿大学	原子力研究所	〃	森嶋 彌重
	京都大学	工学部	〃	木村 逸郎
	〃	原子炉実験所	〃	藤田 薫 顕
	〃	〃	〃	岡野 事行
	〃	〃	〃	宇津呂 雄彦
	〃	〃	〃	岩田 豊
	〃	〃	〃	森山 裕丈
	〃	〃	助教授	西牧 研 壯
	〃	〃	〃	齊藤 眞 弘
	〃	〃	〃	代谷 誠治
	〃	〃	〃	三島 嘉一郎
	〃	〃	〃	辻 本 忠

原子炉実験所原子炉医療委員会委員名簿

平成6年4月1日現在

委員長	京都大学	原子炉実験所	教授	小野公二
委員	"	原子炉実験所附属原子炉医療基礎研究施設	施設長	小野公二
	"	医学部	教授	阿部光幸
	大阪大学	医学部	"	井上俊彦
	京都大学	原子炉実験所	"	内海博司
	筑波大学	基礎医学系	"	稲田哲雄
	京都大学	医学部	"	今村貞夫
	"	"	助教授	織田祥史
	大阪大学	"	"	中村仁信
	京都大学	原子炉実験所	教授	藤田薫顕
	"	"	助教授	齊藤眞弘

保健物理委員会委員名簿

平成6年4月1日現在

議長	京都大学	原子炉実験所	所長	西原英晃
委員	大阪府大	附属研究所	助教授	庄野吉彦
	京都大学	理学部	教授	西村進
	"	原子炉実験所	"	前田豊
	"	"	"	森山裕丈
	"	"	助教授	下浦一邦
	"	"	"	齊藤眞弘
	"	"	講師	秋吉恒和
	"	"	助教授	辻本忠
	"	"	教授	宇津呂雄彦
	"	"	"	神田啓治
	"	"	助教授	三島嘉一郎
	"	保健管理センター	所長	森下玲児

13. 職 員 の 異 動

1. 退 職

平成6年3月31日限り	低速中性子物理学研究部門 (停年退職)	淺 谷 巖
平成6年3月31日付け	経理課機械掛 (ボイラ技師) (定年退職)	中 川 安 三

2. 昇 任

平成6年4月1日付け	核生物学研究部門 (京都教育大学教授へ)	助教授 生 島 隆 治
平成6年4月1日付け	原子炉物理学研究部門 (原子炉核特性研究部門助教授から)	教 授 神 田 啓 治
平成6年4月1日付け	総務課長 (総合人間学・人間・環境学研究科事務長へ)	磯 田 潔
平成6年4月1日付け	経理課長 (富山商船高等専門学校事務部長へ)	木 村 好 秀
平成6年4月1日付け	総務課長 (経理部主計課課長補佐より)	勝 見 治
平成6年4月1日付け	経理課庶務掛員 (原子エネルギー研究所庶務掛主任へ)	長 田 敏 之
平成6年4月1日付け	総務課庶務掛主任 (農学部庶務掛員より)	池 竿 和 美

3. 配置換

平成6年4月1日付け	経理課長 (高知工業高等専門学校会計課長より)	木 村 賢 治
平成6年4月1日付け	経理課用度掛員 (化学研究所経理課経理掛員へ)	天 井 俊 二
平成6年4月1日付け	経理課用度掛員 (医学部附属病院医事課第一外来掛員より)	田 中 耕 二
平成6年4月16日付け	経理課経理掛主任 (経理課用度掛主任から)	平 岡 憲 司
平成6年4月16日付け	経理課用度掛主任 (経理課経理掛主任から)	池 田 敏 子

4. 所属換

平成6年4月1日付け	附属原子炉医療基礎研究施設 (放射線管理研究部門から)	助手	尾崎 承一 おき しょう いち
平成6年4月1日付け	附属原子炉医療基礎研究部門 (放射線管理研究部門から)	助手	木梨 友子 きり ともこ

14. 委員会メモ

(平成6年2月～平成6年4月)

平成6年

2月17日	第84回臨界集合体実験装置共同利用委員会
18日	審議会・協議員会
25日	平成5年度第11回原子炉安全委員会
3月 4日	臨時協議員会
18日	審議会・協議員会
25日	平成5年度第12回原子炉安全委員会
25日	平成5年度第4回保健物理委員会
4月 8日	第154回運営委員会
15日	審議会・協議員会
22日	平成6年度第1回原子炉安全委員会

編 集 後 記

長年にわたって原子炉利用研修者グループの幹事を務められた澁谷教授が、今年の3月で停年退官された。聞くところによると、澁谷先生は旧制高校を卒業された最後の年代であつたらしい。時は否応なく過ぎ、世も移り変わって行く。

最近、どこの大学でも、大学院重点化を名目とした研究科、専攻の再編、学部、学科の再編の動きであわただしい。附置研究所もこの動きに無縁ではいられない。学術審議会の答申を受けて再生を目指す原子炉実験所にも大学院重点化の波は確実に押し寄せている。新しい大学院教育の体制に対応した共同利用研究所となることが求められている。

各大学が大型の研究施設を単独で持つことは許されない情勢となっている。大型の研究施設をもつ共同利用研究所の役割は益々重要となってきた。ところで、長年にわたって共同利用研究の中心施設として機能してきたKURは、今年、臨界30周年を迎える。KUCAも臨界20周年を迎える。たとえ、原子炉施設の健全性調査の結果、新品同様との折り紙がつけられたKURであっても、いつまでも現役を続けるわけには行かない。10年といわず、20年、30年先を見通して、ポストKURを真剣に考えなければならない時期にさしかかっている。